

平成 31 年 3 月 12 日

東工大生の海外派遣等の補助支援報告書

所属(本学)	東京工業大学 環境・社会理工学院 融合理工学系 野原研究室		
学籍番号	18M51820	現在の学年	修士1年
氏名	谷口 俊文		
渡航先国	イギリス		
渡航先	ロンドン (ロンドン芸術大学セントラル・セントマーティンズ校 ほか)		
渡航プログラム	CSM Study Tour Program		
渡航期間	2019/03/01 - 2019/03/11		
奨学金額	¥100,000 円 (総額を記入)		

報告書内容

1, 海外派遣や海外インターンシップの概略について

Science Communication を学び、Science & Technology と Art & Design の「融合」をテーマに、イギリスのロンドンで2週間を過ごした。東京工業大学と2019年より正式な提携が始まる、ロンドン芸術大学セントラル・セントマーティンズ校を訪れ、「融合(Transdisciplinary)」の様々なあり方や形を学んだ。サイエンスとサイエンス、アートとアートが組みあわさることは多々あるが、サイエンスとアートの融合では、双方だけが持つ「他方にはない視点を取り入れることで、新しい価値が創造できる」といったことを感じた。また、王立科学研究所やサイエンス・ミュージアムでは、英国が持つ科学技術の歴史だけでなく、世界中の科学発展の変遷の歴史を学ぶとともに、科学を一般大衆に向けて分かりやすく伝える、といったことを学ぶことができたと思う。

2, 滞在中の勉学、研究等についての感想について

滞在中、主な時間は野原研究室のメンバーと共に、CSM との融合に向けたプレゼンテーションの話し合いに取り組んだ。明確なテーマが明示されていないところから始まったが、「融合」のあり方について皆で様々な視点から考え、自分達が研究室を通して取り組んできたこと、その意義や得られたことなどを改めて認識すると共に、向かうべき先について考えた。また、新たな知見を得るといった目的から、「CRAFT&CRAFT - The Francis Crick Institute」「Wellcome Collection」「Royal Institute」「Science Museum」「National History Museum」「The Design Museum」といった、選択肢としてプログラムで紹介されていた機関を全て訪れることができ、モノの見方や伝え方の多角的な視点や、これら1つ1つの展示も「研究」の1つ1つから来ていると言ったことを感じた。ここで学んだ、着眼点などを今後の研究に生かしていきたいと思う。

3, 滞在中に行った勉学・研究以外の体験について

ロンドン市内にある多くの博物館や美術館を訪れ、イギリスをはじめとした、世界中の国々の文化や歴史、発展を感じた。また、様々な日本にまつわる展示などを見学し、今までにはあまり感じたことのない、海外から「日本」がどのように見られ、感じられているかを考えるきっかけとなった。

#### 4, その他

研修終了後、サイエンス & アートの融合に関する、さらなる知見を得るため、帰路ベルギーとフランスに立ち寄った。日本とは違った異文化を知るとともに、その発展や歴史を垣間見ることができる良い経験となったと考えられる。ベルギーでは、ローマ・カトリックの文化から教会が非常に重要視されているということ、また2ヶ国語以上が公用語として存在すると言った、日本とは違った生活様式を身近に感じる事ができた。また、フランスでは、フランス語しか通じず、言語間の壁について感じる良い経験となった。言語を飛び越した意思疎通を実現するにはどうすれば良いか、「翻訳」という視点などから考えてみたいと感じた。

#### 5, 寄付者への謝辞

このたびは、このような貴重な学びの機会をいただき、日本では得られない、非常に価値のある新たな知見を得る手がかりとすることができました。今回のプログラム参加にあたり、東工大基金より資金の援助をいただきましたご厚意に対し、深く感謝の意を表すると共に、今後の研究活動の励みにしたいと思います。ありがとうございました。

※報告書作成にあたり次の点にご留意ください。

- ・本報告書は東工大基金に提出することを予めご了解願います。
- ・出来る限り具体的な文書作成をお願いします。(写真や資料を添付することも可能です。)